昭

昧

詹

言

李義山 先君云七律中以文言舣俗情入妙者劉賓客也次則義 足饵宗尚皆不及義山義山別為 公作文駸駸乎下移矣義山之得失亦如是 山資之以藻飾樹謂所嫌於義山者政病其藥飾 昭昧詹言卷弟六 七律除杜公嗣 李義山 論義山者多矣譽之皆之 玉 (七律前 / 東沿床臨雪小 兩正宗外大沊十子劉文房及白傅亦 河能嗣響社公則誠未可輕視 各有見地須善會さ 派不可不精擇明辨 ----削墨子層解

義山以孤見崛起自見於世 多賀棠謂義山某某篇政如木蘭雖兇牟裲嵇馳拯金戈鐵 病許葢馨其編事之富謂為不鄙陋耳不知編事富政是陋 少陵忠君虔國 馬閒夢魂猶在鉛黛也又曰魏晉以降多工賦體義山猶兼 **放謂其用事淡僻語工而意不及范景文謂詩家**病 玉臺金樓之體也以上諧論皆有見亦平允得實許彥周謂 與愚謂藻飾太甚則比與隱而不見矣釋石林日詩 可以藥淺易鄙俗之病愚謂不善學義山政恐得此 飯不忘而目義山為浪子以綺麗犂豔極 時鉅公爭相延攬亦 **行謂**奇 非 八論

選一十二 悄面目也如是而曰能得比與則三百篇屈子杜公獨無比 **問**率擠困以死年僅中籌迹其生平足為流涕然而讀其詩 頗厭用兵政府不言武將貪功 **獎雨書事** 者亦可以息矣 興乎學者可因以知其故而謹所從事矣个就七律論之姚 士矣然二十五歲始得第二十.六歲始得昏奔走崎嶇兵亂 不能使人孜其志事以與敬而起哀則皆其뾷藻掩沒其性 大體收頌美宣宗淡罪將相言帝好生定獲天佑也樹 **水**類的味 詹吉木 一首最為嚴潔則其可宗處固可明白而諸家蠻之 宣宗大中四年討黨項連年無功及饋不已上 先君曰三何言刀雖爲相 

隋師東 **死支晦拙滯五六句似亦賣政府無人但無根又合攀此義** 接收句語意支雕 骨被地託詠煬帝征高麗故言前朝元薎郡樹按凡此皆不 勝則虛張首虜以邀厚賞朝廷竭力饋運不給搶州彫敝 以首句專指王茂元非也至三句指劉從諫是也或乃斥 之华失之亦华 力敦之卽杜諸將之憲而詩不及杜樹按此解得與向來皆 山十六歲時少作也 太和二年東征李同捷王庭族久未成功毎有 前有有處故此曰重旨詠甘露之事錢龍惕錢 先君云懼文宗有堅夷之禍堅諸藩鎮 同 骸 得

章法也試觀社公有此忆亂沓複錯履否末句從杜公哀京 意語勢浩然而又出之以文從字順與經歷古文通源其 餖僻晦明七子大都皆同此病然後知有本領與無本領 **寡婦何脫化來似沈著有塋治平之意而早晚七字不免**釘 詩人不過東牽西補塗飾措柱以成室而已姑舉義山 詩而已 皮傅不精切之病如弟四句與次句複又與弟六句複是無 一細按之終未洽雖與象彪炳而骨理不情字句用事亦似有 以何兵犯闕望之者亦過論也要之此詩昔人皆從上選然 此蓋義山與明七子不過詩人志在學古人句格以 非如陶杜韓蘇有本領從肺腑中流出故其措注 

不解杜諸 點題章法用筆略似杜三四句法亦似杜但不知此詩作 潘次耕以此爲指王茂元 六寫思鄉之景句亦平滯 何地似是在蜀及判官時而以燕雁上 (定城樓 則起爲無者若實指王茂元 **何杜諸將** 在幕安定關內道涇州个屬平涼府 先君云此患卿之詩思上 例而學問之大凡胥視此矣 此太和元年王茂元自廣州為涇原節度使 一人則詠一人到底不似此單漏流移不定 一人則又偏枯與全詩章 一林望鄉也樹按此詩 |林爲鄕支泛無謂 首句若非實指 此詩 何

**大型工艺的大型工程的基础工程的工程** 

i

1

籌筆驛 茂陵 派 郁 田獵四言微行五言非仙六言近色末收尤妙又曰藏鋒斂 字收足樹按義山 力起 能尚待騃說平詩只詠蜀之丛天命爲之關張句尤 正賦題弟四句是主末只作襯收驛百叉曰恨有餘 先君云此詩全與武宗對簿一二言窮兵略遠三 先君云此詩人 此等詩語意浩然作用神魄眞不塊 不得其解以為布置不勻不知武

謂絕作樹按江都離宮四十餘所只用紫淵 極 育宮 弟四句收離題有味 奏不免濫登百 字媲色也 晦僻支離輕豔流弈者豈不洗清面目與天下相見海峰 1 元 元 綜變化前四句中敘四代與心全不費力卻又賓主 朝選姚未 一妙極又日純以虛字作用五六句與枉象外活極妙極 八推爲一 先君云寓議論於敘事無使事之迹無論斷之 のでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmの 先君云此專為陳後主而作吐屬狡而婉敘 大宗豈虛也哉但存此等三十二首而 起 明煌言プー 正賦題三四轉五句承弟三句六句 匹 取紫微義且 迹

| 句言後主蹈東昏襲轍後主時天火焚寺墖六句指其事也 武帝立雞鳴肆宋之荒而為齊齊之荒而為梁弟三句為主 變化不可方物詠古極則也宋元嘉三十三年立元武湖齊 太輕利開作俗詩派 (日五六所謂天人皆以告而君臣俱在醉夢中可歎也又 [此詩略近隋宮樹謂隋宮叉遜籌筆驛以用事太濃下筆 一郎所謂此日也五六及收亦是傷於輕利流僾近巧不可 資和味管言六 起句言方士非神不得乃跌起三四就驛舍追想言 注云太和九年復濬昆明曲江二池十

刺極刻然不覺故妙又曰聯對之工楊劉所能其平平寫去 九成宮 如後四句言王涯等被禍憂抂王室愚謂收句欲淡反晦 |露之變十二||月敕罷修曲江亭館此詩前四句追賦元宗貴 題道靜院 **闊足為式則也** 叉曰風雲根避暑來樹按此方是義山本色正宗如建章 不恤民依之意自見言之無罪聞之足戒則楊劉無此作 規制應繩 先君云荔橋夏熟故貢於九成宮紫泥天書只爲二物諷 敘述華妙用事精淡五六寡景收即物取象妙極 此卽事小詩清切可取不及過武威莊高藥 起二句言王中丞所置院三四言刺史 

潭州姚未 聖女祠 先君云前牛地形合東西言之後半入事次句乃通首主句 此五六寫眞以自家作收 義山於會昌四年至潭州從楊嗣復也此亦是詠懷古蹟以 五六句即承明此意以兩代與凸大事證明不能恃險 **重過聖女洞** 八襯帖亦未足法又無謂此詩可以不逸 | 句為主而下俱卽潭之事景言之詩亦平平可不入選 此與太白蜀道難杜公劒川同意皆杜姦雄覬飢 起二句祠三四聖女五六及收輕薄不爲佳 隋改湘州為潭州取昭潭為名今長沙府屬 起句祠次句聖女三四合寫五六及收以古

7

即起下收意猶云客散孟嘗門也義山與鄭皆與安平有戚 鄭州獻從叔舍人麼 關也收用陶藥陽三層樓自言來訪也 七句人不至或指劉蕡 贈鄭協律哲 免東餐西宿開俗詩塗飾之派 但有秀句而已三官主攷謫豈比刺史邪用事似精切而 州刺史而曰舍人葢寄祚也五六月黃紙紫泥與此同皆雙 以偁之金能雖用道家仍切舍人主誤文牋奏是時衰爲鄭 多形形 孫謝指安平公崔戎及令狐也五六是追咸 既、詹言コイ 大約李瑟好道起卽煙霞與鐘鼎遠 此詩亦無勝可

崩鄭謹處士 美之詞然吐屬大雅名貴 **烐赴職而日歸客亦未解想亦預指他日言之** 寄令狐學士 職事也切使君 贈別前蔚州契苾使君 酉贈患之 因許八寄江宵上人 似白 初郊墅 **門額昭味詹吉六** 此詩佳開放翁東坡 此詩用意亦輕烰且起二句又與自迥不切時 **六句謂鄭收乃自** 句法雄傑是時欲解怨於絢不然不全作 何力之子孫也收句用郅都 **指起何浮滑此不如杜** 起句子初以下郊野战

九日 哭劉蕡 接郊畿三字太湊三四壯偉五六細緞 授忠武管許陳蔡三州又授河陽管懷孟衞三州故曰六州 世故業茂元乃酈坊節度使王栖曜子故以信陵擬之茂三 過放府武 威公交城舊莊咸事 如此苜蓿何所指也叉不避楚諱皆不可之大者義山 云起二句交城舊莊原委晉水處叔嗣交城舊莊乃茂元先 嵗受知於楚枉天平幕 此感舊作也流美圓轉之作義山貪用事多不忍 起沈痛先敘情三四追溯五六頓轉收親切 交城太原府屬縣 先君

二句景後半情此詩似杜公此時從令狐崔戎抂藝 一部獨中 日 但刺其奢淫耳起結佳 晟 此即事即景詩也五六間大收妙出場起句敘 不及前詩此義山十四歲時少作 離席起蜀中結 昭昧詹吉小 先君云此擬杜體也然湥厚曲 松州个松潘衞

丽此豈樂天平飲淺易可及舉輞川之聲色藥妙東川之資 蘇黃 往復義山之藻飾琢錬山谷之有意兀傲皆 見隨意吐屬自然高妙奇氣啤兀情景湧現如在 **俩故是古个奇才無兩自別為** 命為吾學蘇也而蘇遂流毒天下突攻與一 東坡只用長慶體格不 言卷弟七 凡才咂上 工腹儉情鄙率以其澹易卑熟淺近 、必高而自以與骨面目 **副墨子誾** 種筆墨肌畫與徑

題寶 病 四寫院中景五六還題病中兼 游祖墖院 雞縣 謂 Щ 是 那 景奇警如見收曲折 一過然其才 斯遜閣 ·地風光 起二句敘題本事三四就 作詩自吐 Ħ 先宴游時景與情事風味川勝不比日 母虎手 之體也 此息歸作 一胸臆 叉應起處 切 起述作 詩本意中 Ó 息 四寫

能及必如此方可謂之淚博令人非不用事只是取题之 所及五六還竹仍切白結句超妙入仙游祖墖院安心竹 類者編之不能如此切也世人皆學東坡拉雜用事項刻 近觀時翫公之本色枉此 開 山白鶴用事切而點化入妙李義山所不能 者也自衡言不重來卽芯然意至蕭卽及渭上尤人 山柏堂 の場合では、一方が中央を言うと 未有無端强入以誇博及隨手填凑以足吾句字為 用本色敘題三句 只如題敘去而與象老氣自然如秦漢法物 例 用點化妙切之至於斯也 而用事尤 人妙如此豈他 古 所

譋 開運鹽河是日宿水陸寺寄北山僧淸順: **壺中九**率 如畫三四水陸寺五六宿時情景收宿字及寄清順 秀州報本禪院鄉僧文長老方丈並下三首 詞意眞切而造語倜儻奇警令人吟詠不 、堂暴雨 由澠池懷舊 日與潘郭 奇氣 起奇氣後半平易近 馬子片言 此詩人 生出郊野春 此詩無奇開 虚 起敘題而其 用圓澤事 只著意鄉

與秦太虛參寥會於松江關彦長徐安中適至 張子野買妾述古令作詩 祭常山囘小獵 次韵述古過周長官夜飲 與述古自有美堂乘月板歸 丁以事繫御史臺獄遺子由 月七日初入贑過惶恐灘 州術士謝晉臣 二四奇響 尚書侍洞郊 で唐の日本音言と 瑰瑋五六境象佳 凘 此首妙有奇氣章法亦往復 無味 太快無頓挫 只五六佳三四宋調吾不取 前四句往復有味 此亦宋調雖有警句吾示 此亦宋調吾不取

學專在此等處所謂作用義山之學在何法 先生之言最精當後人無以易也 諸家只是沈著頓挫恣肆變化陽開陰合不可方物山谷之 欲知黃詩須先知杜眞能知杜則知黃矣杜七 黄山谷 壽星院寒碧軒 朝雲詩 經營善學得體古合一人而已論山谷者惟臺鳴情抱 出潁口初見淮山是日至壽州 山谷之學杜絕去形摹盡洗面目全在作用意 1000年 無畱人處 奇 氣 一 月有三 片 奇氣 氣格空同專

發叉章法變化出以奇詞傑句此雖言詠古而凡作詩發付 胸臆或以題為賓借作指點則必有時事及已所處以相 用本題故實裁對工 題类矦 **窠日者超絕入妙 還致即歲時村翁意收仍寫景餘音不窮校入議論墮理** 為得眞用 是詩律也 目皆然矣若題緒多者則又以曲細交代還題為工 廟 起二句先寫廟兀傲三四點題跌入五六事 此 即詠懷古蹟詩中句句有題廟之人 與前題同起二句分點三四寫景五十 k . . . 一巧爲編事之詩尤爲下劣大家只自吐 詠古最忌人議論塵學究腐套若但接 八
在
所 萴

池 腴 **健事為尚哉** 也言外之妙不 借感自己收切祠堂高超入妙即五六句中意个人 **個字所謂奇詞傑句者後半只敘情而已** 蕉洞獨宿 風雨畱三 剧 淡則我安得不為人笑但有志者不顧也末句所謂與 五六以人 起四句且敘且寫 FI 此悼心詩以弟二 可執著姚先生云自吐胸臆兀傲縱橫豈以 《為興收出場 起句順點次句夾寫夾敘三四以物 往浩然五六句對 入妙此詩別有風味一 何爲主 四 四情景交 こと というない これをしまってきる 、倘笑古 冼 融

前四句軒後四句息 題息軒 贈淸隱持正禪師 新古健不膩不弱不熟不俗不與時人近讀之久自然超出 一大豪放姚先生云能移太白歌行於律詩愚謂小謝答日晚 の最後的な対象を対象である。 を表している。 をましている。 をもしている。 をもして。 をもして。 をもして。 をもしている。 をもしている。 をもしている。 をもしている。 をもしている。 をもしている。 夏日夢伯兄寄江南 郭明府作西齋於潁尾請予賦詩 生新特避熟法收補出題外叉淚親切 三四皆從次句竹字興出五六切息字卽起收意 意味字句清超不食煙火山谷本色 1 起四句亦是 起原題三四作齋云 氣而出五六句意 此等詩只是眞清 

派 送彭南陽 朝字以爲令結 題安福李令朝率亭 還題收入自己然余嫌其習氣空套 寓單行於排偶而又極自然無彊梗齟齬所以爲佳此是 <del>不</del>佳 收出場然余嫌多成空套山谷最有此病不足 門潘秀才見寄 大約類叙情事細細帖題出之以對偶使人 郷田田屋言オー 横亦然 起四句 氣湧出五六切令尹姚先生云結淺 先寫亭中四句亭上 起兀傲 氣湧出三四頓挫五六  ${\mathcal E}$ 所見三四ヌ 切

須慎之 寄黄幾復 道中寄景珍兼简庾元鎭 宏放三四郎從次句生出奧橫闊五六始入題敘情收別 次韵奉寄子由 詩句句頓挫不使一直筆順接二四言外不相見以單行 情事親切非如前諸結句之空套也 和高仲本喜相見 偶令人不覺五六兇囘可謂奇勢不測結句意不甚醒 樣筆法山谷兀傲縱橫一 《賴略味詹言七 亦是一 平敘起次句接得不測不覺其爲對筆 起浩然 次句點題卻以首句跌襯起唐 氣湧見然專學之恐流入空滑 前六句寄景珍七八簡庾 氣湧出五六 此詩足供揣摩取 一六一日 頓結句與

次韵答 義語句皆絕去所以謂之高雅脫去凡俗在此 ιÙν 和師厚郊居示里中諸君 前寅港 等以下又極言其得意樂趣收足非田問舍不得已之 四 氣讀山谷詩皆當以此非之世閒 **柳通奖非田問舍之詩** 入高事實接法兀傲後半平衍而已 起句言此 通首皆寫寅菴自得之趣而措語淸高不雜 石點題次句分兩半上四字石下 六句皆郊居事情景結句乃所 首二句先為解釋識趣高 切厨假腥蟻

遠越 次 前 宋 楙 宗 僦 居 甘 泉 坊 雪 後 書 懷 濤言如在舟中值此時景全是以實形虛小題大做極遠 **灭韵柳通姿寄王文通 元明題哥羅驛竹枝詞** 言雲濤三四 石作 勢可謂奇想高妙小家但以刻畫為工安能夢見此境機 一不得志故云云五六僦居收切雪叉帖書懷 雲 六句作三種筆勢結句衍意竭無妙 **契**續昭 味 詹言七 何濤 一句雲五句石六句又雲濤七八以 起二句突兀奡密 起敘事往復頓挫後半雖衍而 起四句敘宋族氏 七 四別樣五

然不讀山谷則不悟學杜門徑或可微會淚思 題落星寺 段風趣士 句為主以下皆寫族屋之景而中有賦詩之翁在以 此劉選可不鋒 入約杜公無不包有山谷讀杜則可不必讀山 此摹杜公終明府水 模音節氣味逼肖而別 此詩只以

**極鬼神莫近於詩故詩有六義馬** 然則余此所纂陋矣 鍾記室云氣之動物物之威人故搖傷性情形踏舞詠照燭 昔之論詩者備矣然其言亦互有得失个略来其言之尤雅 續昭昧詹言卷弟八 而可為要約者若干條於左閒亦坿按語以訂正之謝茂秦 一才暉麗萬有靈祗待之以敦饗幽徴藉之以昭告動天 **州淪諸家詩話 (論詩舉其大要未嘗喋喋以洩眞機恐人小其道也** で賣店味香芸八 日興! 副墨子誾解 日比三日賦

負戈從戎般氣雄邊塞客衣單媚閨淚盡或士有解佩出 陳詩何以展其義非長歌何以騁其情故曰詩可以擊可 以怨至於楚臣去境煐羐辭宮或骨横朔野或魂逐飛蓬或 |宏斯三義的而用之幹之以風力潤之以丹采使詠之者 極區之者動心是詩之至也若專用比與則患在意族意族 則詞躓若但用賦體則患在意浮意浮則文散嬉成流移 盡而意有餘興也因物喻志比也直書其事寓言寫物賦 合月 那 塞 斯 四 條 之 感 諸 詠 者 也 嘉 會 寄 詩 以 親 雜 羣 託 詩 去給返女有揚蛾入龍再盼傾國凡斯種種感傷心靈非 一泊有無後之氣矣若乃春風春鳥秋月秋蝉夏雲暑 

好 也如康樂公還舊園作偶與張邴合久欲歸東山此敘志 皎然云詩人皆以徵古爲用事不必盡然也个且於六義之 **总是比非用事也詳味** 胸公以孤雲比貧士鮑照以直比朱耹以清比玉壺時 **略論比與取象日比取義日與義即象中之意凡禽焦艸** 、情爽鳩尚已徂吾子安得停此規諫之意是用事非比 、物名數萬象之中義類同者盡入比與關雎即其義 為用事呼用事為比如陸機齊謳行鄙哉牛山歎未及 《演俗味い言八 ΠJ 郑愚謂此但有物象耳與則有義 1 (作者罔不虔 11

思苦思則喪自然之質此亦不然夫不入虎穴爲得虎子 然無鹽闕容而有德曷若文王太姒有容有德乎又曰 問不思而得此高手也 境之時須至難至險始見奇局成篇之後觀其氣貌有似等 詩不假修飾任其醜樸但風韻正天眞全卽名上等予日 無餘味型賓客皆有味與在象外也 義者因物咸觸言在此而意寄於彼知此則言外皆有餘 氣足而不失於怒張力勁而不露情多而不暗意度盤構 不盡於何中如將軍舊厭三司貴言盡而意亦盡於此 (緩漫為沖淡以能怪為新奇 処

歐陽公云唐之晚年詩人無復李杜豪放之 韓蘇而去元白 意相高如周棋風暖鳥聲碎日高花影重叉 章縠云李杜元白土 聖偷嘗謂予日詩家雖率意而造語亦難若意新語工 雨過杏花稀誠佳句也 可空表聖云思無近癡竊謂陳后山時犯此病即曹洞禪 性情不敬文字蓋話道極也 所未道者斯為善也必能狀難寫了 成死句也 STATE AND STATES <del>大海</del>混花 風流挺特愚謂个當政 )格然亦務以 云曉來山鳥 得前

住句也 故事至於語僻難曉殊不知自是學者之病如子儀大年 麼酒件餘事作詩人 退之筆力無施不可而嘗以詩爲文章末事故其詩日多情 蟬云風來玉宇烏先轉露丁金莖猶未知雖用故事何害於 討 維那堪春意漫花陶夕陽遲則天容時態融和貽邊豈不如 在目前手 意見於言外然後爲至矣狀難寫之景含不盡之意若 西崑集出詩人爭效之詩體 人貪非好句而理有不通亦語病也 题!! 發 昨 明 產 言 八 八也然其資談笑助諧謔紋人 變而先生老輩忠其多

蘇東坡云律詩最忌屬對偏枯不容 離出入回合始不可拘以常格如此日足可惜之類是也 必須偶數 <del>数万天下之至工也</del> 韻窄則不復易出而因難見巧愈險愈奇如病中贈張 陌縱橫驅逐惟意所之至於水曲蟻封疾徐中節而不小 凡爲詩文不必多古 類是也分嘗與聖命論此以謂譬如善馭良馬者通衢 寓於詩而曲盡其妙此枉雄文大手固不足論而予獨 於用韻也葢其得韻寬則波瀾橫温泛入菊韻乍還 一覧が中本の言言し 無許多也 句不善者古詩用 1

聯絡此最為文之高致岩杜子美哀江頭古詩其詞氣如 然拙於記事寸步不遺猶或失之矣 風共論詩日梅止於酸鹽止於鹹而其美常在酸鹹之外 居末司空圖崎嶇兵亂之閒而得詩人高雅猶有承平之遺 金戰馬拄坡驀澗如履平地得詩人遺法白樂天詩詞甚 大雅縣九章事不接文不屬如連 唱而 、才不违意思謂个人並無意又無才又無學 邊俱枯亦何足取佛言譬如食蜜中邊皆甜人 東日日をたまり 三歎也淵明子厚之詩外枯而中膏似後而實美 一苦能分別中 百無 山斷嶺相去絕遠而氣象 也

猴子由日李白詩類其為人歌發豪放率而不實好事喜 麥稀基聲花院靜幡影石壇高非目驗不知其了 皇週讒而去所至不改其舊豕王粉竊據江惟白起而從之 俭有僧態若杜子美暗飛螢自照水宿鳥相呼四憂山吐 可空表聖自論其詩以為得味外味如爲樹連 義之心白所不及也漢高祖歸豐沛作歌曰大風起兮雲飛 則白晝般人不以為非此其誠能也哉白始以詩陋奉事 不知義理之所在也語用兵則先登陷陣不以爲難語游 不好遂以放死 个觀其詩固然 唐詩人李杜偁首杜甫有三 暗黃花 但恨其 寒 好

之亦談不容口甚矣唐人之不聞道也孔子們顏子在 翔何之以爲郊詩高處在古無上平處猶下顧沈謝至韓 歌聲無數出門如有礙誰謂天地寬郊耿介之上雖天地之 揚威加梅內今歸故鄉安得猛士今守四方高帝豈以文字 贈白詩有細論文之句謂此類也 髙世者哉帝王之度固然發於其中而不自知也自詩反之 大無以安其身起居飲食有戚戚之憂是以率窮以死而李 不堪其憂囘也不改其樂囘雖窮困早卒而非其處身 一於為詩而陋於聞道孟郊嘗有詩曰食齊腸亦苦 田彦言力

非 爲挾書眠自謂不減杜 **誓問學詩解此當與渠同參** 爲用意高妙五字之楷模也他日公作詩得青山捫蝨 歐陽文忠詩始矯西崑體專以氣格爲主故其言多平 爲酒葢乾坤句謂泯然皆契無則可 王故常其二 、啟云荆公每偁老杜鉤廉宿鷺起九藥流驚囀之句 以言命與孟郊異矣 **所到處雖語有不倫亦不** 爲截斷眾流句謂超出 語 為隨波逐退 言外 復問而學グ 伺其族淺以是為序! 非情識所到其三 句調隨 物 應機

詩之用事不可牽遷必至於不得不用而後用之則事詞為 時龍一吟等乃為超絕 詩下雙字極難須使五言七言之関除去五字三字外精神 **落木蕭蕭下,不盡長江滾滾來與江天漠漠鳥雙去風雨時** 如嘉祚本句但是詠景耳人皆可到要之當令如老杜無邊 腦或日此本為李嘉祐詩王摩請竊取之非也此兩句好處 與致全見於兩言方為工妙唐人詩水田飛白鷺夏木轉黃 失於快直傾囷倒廩無復餘地 正枉添摸摸陰陰四字此乃摩詰為嘉施點化以自見其妙 莫見安排關簽之迹 

此 耳間明主提三尺眼見憑民盜 耳聞明主眼見恩民尤不成語余數見交游道魯直意殊 可解蘇子瞻詩有買牛但自捐三尺射鼠何勞輓六鈞亦與 尺本漢書高帝紀亦自 子縣嘗兩用孔稚主鳴電事如水底笙簧電兩部山中 同病六鈞可去弓字三尺不可去劍字此理甚易知也 **抔事無兩或可略土字如三尺律三尺喙皆可何獨劍** 一詩體雖不類然亦不以楊劉爲過如彥謙題漢高 年到子儀皆喜唐彦謙詩以其用事精 頭雖以笙簧易鼓吹不礙至 可用但此論不可不知 坏雖是著題然語皆歇後 七四日 巧對偶親 別云 初款

孫詩 其精當為杭州鈴轄子瞻作守淚知之後嘗以詩寄子瞻 出處語 輪和揚州詩有云詩書魯國 明月作 **石建方欣洗牏廁姜龐不解歎** 海 中本也 季孫平之子能作七字詩家藏書數千卷善用事送 所 謂 知 小 用事有趁筆 三人則成兩部不 與而 霜髮滿 一字義不應與倒用魯直啜羹不 篇向人寫 意同不 重. 快意 陽曾插菊花無子瞻大喜在 肝 可盡牽出處語而意不顯也 肺 m 知為何物亦是歇後故 誤者雖名輩有所不免蘇 **眞男子歌吹揚州作貴** 四海知我看餐鬚蓋記此 **野城據漢書牏厠本作** 頳 用事宵 学 廁 也 和

讀古人詩多意所喜處誦憶之久 之懷皆見於言外滕王亭子粉牆猶竹色虛閣自松聲若不 詩人以一字為工世固知之惟老杜變化開合出奇無窮始 用猶與自兩字則餘八言凡亭子皆可用不必滕王也此皆 塊已西本是西巴見韓非子葢貪於得韻亦不暇省耳 見其用力處个人多取其已用字模仿用之偃蹇狹陋盡成 下數百年只在有與自兩字閒而吞納山川之氣俯仰古个 **死法不知意與壞會言中其節几字皆可用也** 小可以形迹拘如江山有凹蜀楝宇自齊梁遠近數千里上 一妙至到人力不可及而此老獨雍容閒肆出於自然略不 〈往往不覺誤用爲己語絳

語對若參以異代語便不相類如一 荆公詩用意甚嚴尤特於對偶曾云用漢人語止可以漢 使莫彼我辨耳 去取之閒用意尤精觀百家詩選可見也如蘇子瞻山圍 周顒宅在阿蘭若婁約身隨窣渚波皆以梵語對梵語, 闢送青來之類皆漢 乃有释陰生畫寂 幽艸弄秋妍之句大抵荆公閱唐詩多 一城空在潮打西陵意未平此非誤用直是取舊句縱橫役 **晝寂孤花表春餘此草蘇州集中最為警策而荆公詩** 面解公自喜田園安五柿但嫌日 日有言人 人語也此惟公用之不覺句窘卑凡 水護田將絳繞兩山 脱擾庚桑ク 排

| 燕受風斜之語至穷花峽蝶淚淚見點水蜻蜓款款飛淚淚 詩語固忌用巧太過然緣情體物自有天然工 以為的對公笑曰伊但知柳對桑為的然庚自是數葢以 出矣燕體輕弱風猛則不能勝惟微風乃受以為勢故有輕 見刻削之痕老杜細雨魚兒出微風燕子斜跳十字始無 之渾然全似未嘗用力此所以不礙其氣格超勝使晚唐 數之也 爲之便當入魚躍練波拋玉尺鶯穿綠柿織金梭之 虚設雨細著水面爲漚魚常上浮而念若大雨則伏而不 無穿字款款字若無點字皆無以見其精微如此然讀 Man . Ċ 1 Ì 一妙雖巧而

矣不若劉禹錫賀晉公畱守東都云天子旌旗分一半八方 韓退之雙鳥詩始不可曉嘗以問蘇子容云意似是指佛老 軍舊壓三司貴相國新兼五等崇非不壯也然意亦盡於此 為傑出然每苦意與語俱盡和患晉公破蔡州囘詩所謂 風雨會中州語遠而體大也愚謂夢得此句亦麤不足法 杜錦江春色來天地玉壘浮雲變古个與五愛鼓秀聲悲壯 二峽星河影動搖等句之後常恨無復繼者韓退之筆力最 七言難於氣象雄渾句中有力而紆徐不失言外之意自老 學以其終篇本末攷之亦或然也杜子美病柏病橘枯 枏四詩皆興當時事病柏為明皇作與杜鵑行同意枯

料明

財為言不

漢志當為房文律之徒作性病橘始言惜哉結實小酸歰 棠梁末以比荔枝勞民疑若指近倖之不得志者自漢魏以 比民之殘困則其篇中自言矣枯枏云猶含棟梁具無復寶 古今論詩者多矣吾獨變湯惠休們靈運爲初日芙蓉沈約 | 來詩人用意演遠不失古風惟此公爲然不但語之工也 何王筠為彈丸脫手兩語最當人意初日芙蓉非人力所能 此亦無幾彈九脫手雖是虛寫便利動無抗凝然其精圓快 為而精采藥妙之意自然見於造化之妙靈運諸詩可以當 速發之在手筠亦未能盡也然作詩到此地是復奧有餘事 )贈脹籍云君詩多態度靄鸛春空雲司空圓記戴权 Will the state of the state of

自是奇作世效古人平易句而不得其意義翻成鄙野可笑 唐子四云唐人有詩云山僧不解數甲子 句句偁述未可謂然也 劉貢父云詩以意為主文詞次之或意族義高雖文詞平易 倫語云詩人之詞如藍田日暖良玉生煙亦是形似之微 此桃源記言尚不知有漢無論魏晉可見造語之簡妙葢晉 及觀元死詩云雖無紀應志四時自成處傻覺唐人對力 者但學者不能味其言耳愚謂風騷亦何嘗定如此 **唐韓吏部詩高阜至律詩雖偁善要有不工者而好韓之** 造語而元亮其尤也 葉落知天下

然而去皎然度其必復來乃書中字握掌內僧果復來云欲 一蘇東坡詩敘事言簡而意盡惠州有潭潭有潛蛟人未之 章早工每坐此也 恩大凡立意之初必有難易二途學者往往舍難而趨易文 也虎飲水其上蛟尾而食之 詩謁之然指其御溝詩云此波涵聖澤波宇未穩當改僧烿 作詩自有穩當字弟患之不到耳皎然以詩名於唐有僧袖 詩在與人商論淚求其疵而去之等閒 一詩律東坡云故將詩律關淡嚴予亦云詩律傷嚴近寡 一俄而斧骨水上人方知之東坡 一字放過則不可

精蟲不可不擇也不擇則龍蛇電蚓相雜矣 語室分別 斯文盛於漢魏衰於齊梁樹按杜公云縱使王 張正民云篇章以含蓄天成為上破碎雕鋑爲下 需甘苦齊結實此類是也文章只如 以十字道盡云潛鱗有饑峻掉尾取渴虎言渴則知虎以 一而弄斧操斤太甚長吉非不奇而牛鬼蛇神太甚 篇直紀行役耳忽云或紅如丹砂或黑如點漆兩露之 而召烖言饑則蛟食其肉矣 作者初無意於造語所謂因事以陳詞如杜子美北征 が出した。是言アー 八作家書乃是愚謂 四嵐非

では、一直の一方面では、一直には、一直には、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方面では、一方 | 呂居仁云詩貴警策但晉宋人 極至處 及也 一無高古氣味 於漢魏近風騷又云竊擊屈宋宜方駕恐與齊梁作後塵杜 家況淡追而具體者乎由表足之言則李及韓蘇實皆未能 割無逸謂老杜有自然不做底語到極至處亦有雕琢語 為詩常患意不屬卽不若且休 言王楊尙不至此又論杜公無美不倘有鏡其一 公意屈朱當攀但不可沿其流弊至爲齊梁耳始終薄齊梁 ( 專致力於此又失於綺靡 THE STATE OF THE S 一優可 í

學古人詩須知其自短恁旧 |潘邠老言七言詩第五字要響五字詩弟三字要響如返 洛輕花浮字落字所謂響者致力處余卻以為字字當響 然如魯直猩毛筆用事切當又必此詩也 老杜歌行最見次弟出入本末而東坡長句波瀾浩大變化 詠物詩不得分明說盡只髣髴形容自然已到如義山兩詩 學古人詩須知其有短處如子美有近質處東坡有汗漫處 山谷有太尖巧處 **小測如作雜劇打猛譚入卻又打猛譚出也** 江翻 石壁歸雲擁樹失山邨翻字失字圓荷浮小葉細麥 

老杜云新詩改罷自長吟文字頻改功夫自進歐公作文時 意與言會言隨意遺渾然天成始不見有牽率排比處 葉石林云王荆公晚年詩律尤精嚴造語用字閒不容髮然 加竄定有終篇不畱一字者山谷長年多定前作 有明上人作詩甚艱非捷法於東坡坡作兩頌與之云字字 法度法前軌人言非妙處妙處在於是余謂此二法皆須活 殿突兀風動金琅璫當身見之乃知其妙 **覓奇險節節紊杖葉咬嚼三十年轉戛無相涉衝口出常言** 如曾南豐中前一病而謝鮑以此得之白傅東坡得後 The state of the s

朱子日杜公夔州以前詩佳夔州以後自出規模不可學蘇 卿詩云千峰共夕陽佳句也近時僧癩可用之云亂山爭落 蘇子由燙亭皋木葉下隴首秋雲飛此正是子由慢底句法 劉琨詩高東晉已不逮前人 **黃**只是个人詩蘇才豪 某卻變寒城 之變體太白專學之 晉以前皆佳 說之妙而俗人以此失之不得執著此語 不能呼明詹言不 一以眺平楚正煮然十字卻有力放翁論劉 **凌**說盡無餘意黃費安排須看西 八齊梁宣浮蔣鮑才健其詩乃選

關多少飄逸氣概優有帝王底氣欲越州有石刻唐朝臣送 唐明皇資稟英邁只看他做詩出來是甚麼氣魄如早渡消 賀知章詩亦只有明皇一 齊樂問之詩讀之使人四肢皆懶慢不收拾 李太白詩不專是豪放亦有雍容和緩底如古風首篇古 人不作多少和緩陶淵明詩人皆說是平淡據某看他自 太白五十篇古風是學陳子昂威遇詩其閒多有全用他句 放但豪放得來不覺耳 口雖工而窘不建本句 首好有日豈不惜賢逵其如高尚 

句云不足為法 怪意忠亦自有渾成氣象 詩須是平易不費力句法混成如唐人玉 文字好用經語亦 詩都啞了不知是如何以爲好否 杜詩初年甚精細晚年橫逆不可當只意到處便押 杜子美晚年詩都不可曉呂居仁嘗言詩字字要譽其晚年 如自秦州入蜀諸詩分明如畫乃其少作也 病老杜詩致遠思恐泥東坡寫詩到 險

做 个人事 處亦是絕好如梁甫吟 思
度
急 朗 虚 、盡命去弈波只是無 得何便巧張文階詩只一 不好底不好底將做好底這個只是心裏鬧不虛靜之 手擊庸兒是天意等處說得好但結末差弱耳 門覓句 一技蓺做得精者也是他心虚理明所以 静故不明不明故不識若虛靜而明便識好物 事所以做得不好者緣不識之故只如箇詩舉世之 歸擁被 如秦 で東四大舎三八 少游詩甚巧所謂對客掉毫者想他合 臥而思之呻吟如病者或柔日而後成眞 偤 篇筆力極健如云示安受命堪 人做得成詩他是不識好底將 **肇寫去重意重字皆不問然好** 上丘野道是是美国 /做得來精心 事 亚:

此緣是不遜志好學之 開 口做百首也得 世奔 次諸家詩 詩先用看李杜如士 、詩中有句介 何見得 足旣不淡非古人又不虛受个人地 曹 無 命去做詩無 《眞知》 14日 何能識真邊見偏見顛 家也哉 りた言 詩叉無句只是 成偏才小慧 做成緣是不識之 治本經本既立 器淺氣浮稍有微能 直 例 見糅 説將去 概德齊以能 故愚謂所以 方可看蘇

其宏大皿脈欲其貫質而忌露韻度欲其飄逸而忌輕 雕刻傷氣若過拙而無委曲又不是 學有餘而約以用之意有餘而約以用之乍敘事而閒以 詩之不工只是不精思耳 難說處 理妥警切說事要簡要說景要活見多看自知多作自好矣 三前 STREET TO THE PERSON OF THE PE 小詩精濙短章醞藉大篇要布置開合 所易言我寫言之人所難言我易言之 方寫景而夾映情 口詩有氣象體面面脈貫度氣象欲其渾厚體面欲 語而盡易說處英優放過解事實用熟事虛用說

意格欲高聲調欲響始於意格成於句字 波瀾 爲終出人意表或反終篇之意愚按即所謂出場也 思有窒礙滷養未至也當試以學 詩有四種高妙 語貴含蓄坡公云言有盡而意無窮天下 度不可亂愚調此惟長篇宣之 景景外有意 二百篇美刺筬怨皆無迹 止又復是奇方以為奇忽復是正 肚閥如在江湖中 **影彩明**身是言了 日理高妙二日意高妙三 波未平 一出入變化不可紀極而 波已作如兵陣方以 之至言也意中 曰想高妙四 THE R. P. LEWIS CO., LANSING, MICH.

集除 想外為想高妙如扶桑西枝封斯石弱水東影隨長流是意 | 微如清潭見底日想高妙自然天到日自然高妙愚謂意 **想俱高妙也** 問有爲眾所推與傅美者大抵亦是意詞淺近習熟雷同 字不穩不確或取境命意不切不倫旣無句法又無章法 ·然高妙礙而實通日理高妙出事意外日意高妙寫 知詩病何由能詩不觀詩法何由知病愚觀近代人詩文 何混似意在事中忽出事外為意高妙想在意中忽出 意中所能有凡人筆下所能到所謂雞有五 **真作家外多是傖俗淺陋或亂雜無章或用事** 2 一德君猶

皆可觀否則縱有可取而非眞合作則其餘必無取此如容 平日閱人文字率少可多否友人或以是病余要之亦是友 義意才筆氣格出塵境象出人意表令人眼明何由刮目與 光觀瀾見驥一 而食之者以其所從來近也譬如雅烏犬豕戶巷皆是無有 為大憝悖惡耳豈可優許之為聖賢英傑非常之士哉故思 八不能真識得好不好之故推之文字楷法義理政事皆然 偽則皆偽人心如印板不容有異印也余年七十始分明 阅人文字一 一般但在眾人耳目前作一 毛即知全體亦緣眞偽無二 **部全集中如有一二篇眞合作則其餘必** 無大破綻之人而已弟不 理 **眞則皆眞** \*\*\* C. S. \*\* \*\* C. \*\*\* C. \*\*\* C. \*\*\*

北田中居言人

支法如杜公聞收河南北弟二句弟三句四句皆頓挫也至 六句始出題如水縢泗停蓄忽又流下此惟太史公文及杜 見得如此義理德行政事皆然 爲詩而後義意及用事專講文法以頓挫沈鬱爲主非苦思 詩最得此法 無復行文之妙頓挫者橫斷不即下欲說又不直說所謂然 馬彎弓惜不發若一 嚴治浪日禪家者流乘有大小宗有南北道有邪正學者須 不能避滑易輕斧 一乘具正法眼悟弟 **个專以與與景聲響氣象偉麗不驚人不** 一直滚去如駿馬下坡無控縱之妙成何 義若小乘禪聲聞辟支果皆非 詩文無頓挫只是說白话 

學詩先除五俗 婉其用工有三日章法曰句法曰字眼而其極致日入神詩 有九日高日古日族日遠日長日雄渾日飄逸日悲壯日 果也 還之詩則小乘禪也己落弟二 **竆理則不能極其至** 夫詩有別材非關書也詩有別趣非關理也然非多讀書名 詩之法有五日體制日格力日氣象日興趣日音節詩之品 而入神至矣盡矣蔑以加矣惟李杜得之他人得之葢寡矣 正也論詩如論禪漢魏晉與盛唐之詩則弟 1 1 1 日俗體二日俗意三日俗句四日俗字 一義矣晚唐之詩則聲聞辟支 等十十名名 经免产人公司 经水力 医慢性大情之后 多月日 義也大歴

月月月三十

有之惟語思則不可有 得結句好難得發句好尤難得 骨重最层趁帖 **意貴透徹不可隔靴搔痒語貴脫灑不可拖泥帶水** 口俗韻 詩五言絕何難於七言絕句 一个賴昭 床 詹言八 扁菜順肆筆而成旣識羞媳始生畏縮成之極難及其 律詩難於古詩絕句難於八句七言律詩難於五言律 不必太著題不必多使事 **有語总有語病語病易除語忌難除語病**古 須麥活句勿參先句 語是直意思後脈层露味思短質韻思散 須是本色須是當行 學詩有三節其初不識好惡 發端忌作舉止收拾賞在 下字貨鄉造語或圓 詞氣可煎煩不 對何好可

窟中 見詩笔其題引而知其為唐人个人矣 象不同唐人命趙言語亦自不同雜古人之集而觀之不 而病於意與唐人 **示識盛唐下者漸入晚唐矣晚唐之下者亦墮野狐外道** 試以己詩監之古人詩中與識者觀之而不能辨則古 **居者要當論其大概耳** 則七縱八橫信手拈來頭頭是道矣 一

居

詩

亦

有

一 詩有詞理意與南朝人尚調而病於理本則人何理 人何意興而理在其中漢魏之詩詞理意 二濫觴晚唐者晚唐詩亦有一二可入 磨人與本朝詩未論工拙直是氣 大愿之詩高者尚 詩之是非不必爭

菊東雜下悠然見南山謝靈運池塘生春艸之類謝所以不 漢魏古詩氣象混沌難以句摘晉以還方有佳句如淵明系 **一个镇阳、味管言八** 及胸者康樂之詩精工淵明之詩質而自然耳 育尾成對句矣是以不及建安也 安風骨晉人舍胸淵明阮嗣宗外惟左太冲高出 李廣然皆制勝之師也 衡猶枉諸公之下 、者當觀其集方知之 建安之作全是氣象不可轉枝摘葉靈運之詩已是徹 篇不佳黃初之後惟阮籍詠懷之作極爲高古有建 顏不如鮑鮑不如謝文中子獨取顏非 少陵詩慰章漢魏而取材於六別 少陵詩法如孫吳太白詩法 謝眺之詩已有全篇似 二十一种的一种的一种 謝靈迎ン 時陸士

**運要耳** 識眞味須歌之 杜數公如金翅蜂海香象波河下視郊島最直蟲吟艸問耳 要識其安身立命處可也 至共自得之妙則前輩所謂集大成也 隱操嚴夫子哀時命宣熟讀此外亦不必也 不歡楚詞惟屈朱諸篇當讀之外惟賈誼懷長沙淮南王 八歌室郢尤妙前輩謂大招勝招魂不然 白處太白天才豪逸語多率然而成者學者於每篇 、惟柳子厚淚得騷學退之李觀皆所不及 抑揚涕淚滿襟然後為識離縣否則如戛 太白發句謂之閉門見山 觀太白詩者要識 讃騒之仏 九章不如

| 班尖不舍畫夜山梁雌雉時散時哉無非與也特是不會隱 羅景綸云詩莫尚乎興聖人言語亦有專是與者如逝者如 體用本原耳 長胡笳十八拍渾然天成絕無痕迹如蔡文姬肺腑中流出 **州無可護國靈** 括協韻爾蓋興者因物威觸言在於此而意寄於彼義味乃 唐賢所及 皮日休九諷不足爲騷 可識非若賦比之直言其事也故與多兼比賦比賦不兼 釋皎然之詩枉唐諸僧之上唐詩僧有法震法 清江無本齊已貫休也 韓退之琴操極高古正是本色非 ALCOHOLD BY THE 集句惟荆公最

惠洪冷齊夜話云東坡嘗曰淵明詩初看若散緩熟看有冷 吹淡老中雞鳴桑樹頭大率才高意遠則所寫得其 何如日 **芦巾柴車路暗光已夕歸人望煙火稚子族門隙で** 鴻雁影來聯塞上鶺鴒飛急到沙頭則比而非與也 燕語而喜已之攜雛上居其樂與之相似此比也亦與也若 也艸堂成云暫止飛鳥將數子頻來語燕定新巢葢因鳥 耳此賦也亦與也若處時花濺淚恨別烏驚心則賦而非與 **習人蓋因飛花語燕傷人情之薄言送客畱人止有燕與花** 古詩皆然个姑以杜陵言之發潭州云岸花飛送客橋燕語 一天菊東雜下悠然見南山又靄靄遠人 月月左手ブ 人即依依虛里煙 The state of the s 飛

精到之至遂能如此似大匠運斤不見斧鑿之痕不知者困 夏又曰淡秋簾幕丁絲丽落日樓臺 疲精力至死不知悟而俗人亦謂之佳如日一十里色中 題便盐 月十萬軍聲校半潮叉日蝴蝶夢中家萬里杜鵑枝上月一 **建筑的** 对 的 形 体 色 言 八 其意而造其語謂之換骨法窺入 限以有限之才追無窮之意雖淵明少陵不得工也然不易 之態細味對甚的而字不露山谷云詩意無窮而人之才有 法如鄭谷十月菊曰自綠个日人心別未必秋香一 一初如秀整熟視無神氣以其字露也東坡作對則不 山中老宿依然在拳上楞嚴已不看之類戛無齟齬 八其意而形容之謂之奪胎 一笛風皆如寒乞 秋

嚴首昇日七言下三字須出上 何如無可止 曾子 固 日 詩 當 使 人 **雨聲也又日微陽下喬木遠燒入秋山是以微陽比遠燒也** 唐僧多佳句其琢句法比物以意而不抏言其物謂之象外 意甚住而病柱氣不長西漢文章雄淡雅健者其氣長故 **兀**六

大

山

苦

直

易

詳

藍

無

餘

可

育

又

往

程

桂

桂

持

長

表

表 一敘與詩室互見不室重見詳略異同自有法 一於詩又有詩複於飲之病人皆喜其敘予正嫌其多一 | 句注古詩亦然 大学 100mm 1 八詩日聽雨寒戛盡開門落葉疾是以落葉比 一覽語畫而意有餘 一四字意外二句中勿將下句

亚 場然亦見戲不得要令人使不宜令人 近體收煞左老古體煞句宣活涪翁云如雜劇然要打諢 質恩按 偷與是詩家首禁王摩詰住處疆半襲舊故摩詰詩不可 **遇物抒懷或慈或俠或憤或適是有萬物皆備反身|** 在園亭中李杜園亭大他人小采花石者須於山海勿於 事詞在經史中如嘉樹怪石在 、詩之 亦惟杜公有然秦中雜詩二 調が見いし 家物雖平淡巧麗不同要能以 1 -山海中移入詩文傻 /作笑柄 一十首可見 ! 而誠 置 如

門不善學者傻 評義 於怪俗奇險 鄭廣文東閣官梅李義山隋宮曲折頓挫全以虛爲用先 **池德機云實字多則健虛字多則弱愚謂此亦不然如杜** 加耳 山茂陵詩 云詩貴不經 入凝肥 1 藏鋒 紋鍔 於宏 音 壯 来 之 中 七 律 無 此 家派語不驚 道按 派此言用實字之佳處然樹 不全用實字也 此語須善會循是而爲之

皇甪子循云或謂詩不應苦思苦思則喪其天眞此語不然 **属用功則自見之勿主一廢** 質而不但所以可貴變詩正以多俚耳然其佳者不可掩失 語欲妥帖字必推敲一字之瑕直害其句一句之柔并害其 謝茂秦日詩有三等語堂上語堂下語階下語上官臨下官 子不喜爽詩山谷專宗夔詩昔人聚訟不決吾以爲皆是也 語者大家麤服飢頭皆有自得之象堂下語者名家工妙句 動有昂然氣象開口自別下官復上官所言殊有條理不免 局促之象若訟者罪囚說得極詳猶恐不能勝人愚按堂上 **海路** 續昭昧詹言八 ——— 114

要緊下手處傻了局得快也指此三者直取之也 詩有三法事情景嚴羽譬之劊子手殺人直取心肝作詩 作詩本乎情景情景有異同摹寫有難易詩有二 詩

立

擇

韻

立

是

麗

低

学

忠

孝

字

不

立

輕

用

思

謂

亦

在

善

用

表 剌剌不休之言然學堂上語又易成客氣假象必如杜公所 也階下語則如合俗人之詩牆陰屋角老夫老媼騃童愚婦 **斯觀則同於外處則異於內當力使內外如 江**意易措詞難 云秦王時 在坐真氣驚戶牖斯爲 真也 一要莫切於

詩乃摹寫情景之 特居然在眼 景勻稱江 實或則情多或則景多皆有偏而不融之病卽造化不完范 形元氣運成馬謂景有淚淺摹寫有工 無閒也景乃詩之媒情 意如禽不如鳥翎不 凡字異而意同者不可楔用宜分乎彼此此先聲律而後義 善詩者就景中寫意不善詩者去意中轉景惟杜 律 盈科論杜夔詩象境傳神使 个精昭 昧 詹言人 )具情融乎內而淚且長景耀乎外而真且 如飛蔡不如龜涼不如寒勿專於義意 乃詩之胚合而為詩以數言而統萬 一拙措語有雅俗 人讀之山川奇崛 丟 

制變有相妨者離之雙美合之兩傷空割變置之再加沈 乎精也作詩勿自滿有未工者若識者**詆訶則易之作詩要** 說與如題畫諸詩是也凡皆以避正說實說無味易盡也 盛枉此偏說彼如秋興是也在个說往日渼陂是也指古 正言直述易於窮盡而難於感發人意託物寓情形 說令人因今人弔古人因物以及人因送人及彼主人因 又貴實而虛之預說他時如杜十二月一日是也當衰偏 反覆詠歎以俟人之自得所以貴比與也 得警句空同極苦思詩成一 不在遲速以工為主造句遲則愈見其工詩不厭改貴 一句不工即棄之愚謂句 思

|戴褐夫日爲文之道訓燙而已皆可與茂秦言相發 悲歡皆由乎與非與則造語不工 詩有造化美玉微瑕未為全寶是造化未完也 聽之金聲玉振觀之明霞散綺講之獨繭抽絲此詩家四 凡作近體詩誦要好聽要好觀要好講要好誦之行雲流水 **万知無處無時而非興也** 悲威詩與中得者愛佳千言反覆愈長愈健熟讀李杜全 工衡日苟背義而傷道雖甚慶而必捐吾鄕隱士賣菜翁告 關不過即非作家愚謂尤在講之精族有法律運 專造遲如朱子論秦少游可見但戒率意滑易耳叉按陸 電がリカラ 一歡喜詩興中得者空短章 用

聲歌則抑之揚之靡不盡妙如杜兵戈不見老萊玄此如平 章孟有之愚謂五言八句可以皆淡七言則不可 矣王少伯玉顏不及寒雅色猶帶昭陽日影來上句玉不 抑少則調勻抑多揚少則調促如杜朝元閣上 聲揚之我已無家二句如上聲抑之黃牛二句如去聲揚之 平仄四聲有輕重抑揚之分凡七言八句起承轉合亦具 後濃中淡則不可有八句皆濃者唐四傑有之八句皆淡 此別二句如入聲抑之也夫平仄以成句抑揚以合調揚名 律詩中兩聯貴乎 作雨聲上句閣急二入聲抑揚相稱歌之則為中和 一濃 一淡若中兩聯前濃後淡則可若前 西風急都 譋

種桃道士歸何處前度劉郎个又來上句四去聲揚之又揚 色四入聲抑之太過下句一入聲歌則疾徐有節矣劉禹錫 **教船**水詹言八 歌則太硬 戴叔倫旅館誰相問塞鐙獨可親一年粉盡夜萬里未歸 同則太熟不同則太生二者似易實難使其堅不可脫則能 近而不熟遠而不生 寥落悲前事支離笑此身愁懷與衰鬢明日又逢春觀此體 輕氣浮如葉子金非錠子金凡五言律兩聯若綱目四條詞 不必詳意不必貫此皆上句生下句之意八句意相聯連中 旬 一意摘一 句亦成詩 篇 一意摘 旬不成詩也 干量

學子美太白者則不免蹈襲亦有避其故迹者雖由大道 海略無阻滯若李杜則飄逸沈重之不同行皆大步本朝 家 跬步之間或中或芴或緩或急此所以異乎李杜而轉折 煙揚子津 矣夫大道乃盛店諸公之所其由者子但由乎中, 秦明朝對清鐵髮病又逢春 離則味短晚唐人多此句法因勉愛六句云燈火 **罅隙何以含蓄頷聯雖曲盡旅況然兩句** (詩醫行長安大道不由狹那小徑以正為趨則通 年將盡友萬里未歸人葬棧南浮越功名西向 意合則味 石頭驛 於

必專一而通眞也專於陶者失之淺易專於謝者失之恆 自然妙者為上 錬句須海然一字不工乃造物之不完如許渾獨愁秦樹 槌金為葉氣體輕不如錠子金劉廣州五言長城與少陵 字未工易巷冷幾家月人孤萬里心按茂秦所改皆空商 無可山脊南去雁楚板北歸鴻此亦上一字欠工宣易江春 孤夢楚山遙此上一字欠工宐易鞨愁秦樹老歸夢楚山遙 則輕重不侔 南去雁關板北歸鴻周樸巷有干家月人無萬里心此中 開発を見る日本は関グを見かけました。 [氣蘊乎內箸乎外]初盛諸家 一精工者次之此者力不著力之分學之 们

朔漠横雕清逸如九皋鳴鶴明淨如泰山積雪高遠如長空 片雲芳潤如露惠春蘭奇采如鯨波蜃氣此見諸家所養之 不同也學者能集眾長合而為一 言也惟子美能之耳有三說論品藻可以合參个坿錚於後 蔡條云有人答書生詩云百首為一首卷終如卷初談其 鐫氣出於言外浩然不可屈盡心於此守而勿失 如孤峰峭壁壯麗如層樓墨閣古雅如瑶琴朱於老健如 與族者通物理用事工者如已出格見於成篇渾然不可 奇古不鄰於怪僻題詩不窘於物象敘事不病於聲律比 王歸麥云方囘言學於前輩得八句云平淡不流於淺俗 則為全味矣愚謂此不易

利田时存言了

三人間は日本の日子の日子が

王元美云七言律篇法之妙有不見句法者句法之妙有 爲 沖淡さ 於峻潔徐庾長於藻麗杜公窮高妙之格極豪逸之氣包 萬狀兼古今而有之他人 胡苕谿云人得 後人多矣故元微之云詩人以來未有如子美者秦少游 云蘇李長於高妙曹劉長於豪逸陶阮長於沖淡謝鮑長 能變態也愚謂个人 不佳者勿論矣 趣兼峻潔之資備菜麗之態而諸家之外所不 節皆自名所長至杜甫渾酒汪洋于 八刻集汗牛兼輔其佣佳者病皆若 八不足前乃厭餘殘膏剩馥沾 THE LEGISLATION OF THE PARTY OF 匃 巢

THE RESERVE OF THE PERSON NAMED IN 李東川七律最響克整肅 | 禪句有必不可入古者古詩字有必不可為律者然非名 柱趨下 李西涯楊鐵巖都作樂府何嘗是來 許身稷契衙官屈朱又不足言矣 古詩未有能以律詩高天下者也 重犯故事然作詩精神到處隨分自住縱使犯此不覺痕 小美云談詩者謂七言律不可 涯假是長慶以後手段吾故曰衰中 句兩入故事 有盛盛中有衰各 篇中

詩ク 迹亦 詩不惟體顧取諸性倩何如耳若不惟性倩但以新聲 重複 杜公善於摹寫 陸仲昭云事多而寡用之意多而約出之 安知个不經人道語非他日陳言乎萬古常新 不悟余七律亦犯此病當極思變以進 句大美刻意杜陵所未滿者意多於景耳愚謂 無傷如太白噉倉 野牙川 一於體物愚謂必力危此一 則眞隱而僞行矣愚挨過丰 The state of the s 事 此語 国河

用作言

有所倚則客氣乘而與意奪隆君所謂過也 看子論小雅日疾个之政以思往者其言有文爲其聲有哀 顧亭林日詩言志詩之本也太史陳之以觀民風詩之用 流水江燕初飛不見人以為上猶帶琢下句則眞相自然矣 使為意使為詞使為氣使諸病而又舉李嘉祐野棠自發空 爲此詩之情也建安以逮齊梁詞人之賦壓以淫失詩之言 或為意使人有外藉以為使者則真相隱矣故詩不可偏 可以此會之 解大約言勿太者意於 詩文之所以代變有不得不變者一 製資沿床雪雪八 或為才使或為氣使或為詞使或為典故使 偏反使真意真相斷滅故舉為 代之文沿襲户 11.

必所贈之人何人所往之地何地一 錢即贈送之作當時引以為重應酬詩前人亦不盡廢也然 情流露於中自然可詠可歌非凝下張君房單所能代作 韻故拈險俗生澀之韻可無作也昏昏長板解此豁然 毛稺黄日詩必相題狸墳尖新淫塾等題可無作也詩必 則失其所以為詩似之則失其所以為我 先存於中揣摩主司之好向迎合君上 不容人人皆道个取古人之陳言而 略可 觀矣 一也錢起湘靈鼓瑟王 開発を見る。 甲二十二十 一維奉和聖製雨中春堂外傑作 按切而復以已之 一之意言位其言之 難

如見其憂國傷時其世不見容愛才若渴者昌黎之詩也其 馮鈍吟·云庾子山詩太白得其清新杜公得其縱横 為人子 而性情面目隱而不見何以使尙友古人者讀其書想見甘 喜笑怒罵風流儒雅者東坡之詩也卽下而買島李洞輩拈 性情面目人人各具讀太白詩如見其脫屣干乘讀少陵詩 漫变云東坡善用事旣顯易讀叉切當 人詩不厭敗所以有日煅月鍊之語 章一句無不有買魯李洞者存儻詞可餽貧工 、謂正人不立作艷詩此說甚正質裳駮之非也 主 同雞劍

文章必以理勝詩賦乃文之有韻者耳亦文也如六經義 僅 双義 **味甚短不** 開情賦可以不作後世循之直 悟解矣 演微諸史成敗之 **曾無根柢而徒取塗於五七言中縱極工** 否則不樂而彊笑終不解頤不哀而彊悲終不下弟矣<br/> **同朱竹垞名教罪人豈可託之周公東山之詠耶李空同** 一谿云詩發乎性情則精神自楊三百篇所以動人者 山作無題想見其胷中無識 過潘陸牢籠中物耳於陶杜韓蘇諸 ž 炯戒苟竆其言則議論縱橫滚滚不 是輕薄裡 一数最誤子弟如 一級風骨不疑尋 風

麗往往買禍吾輩值此盛世偶有規諷要不可有一毫出位 借用明用不如暗用正用不如翻用整用不如折用順直 之言外所謂無罪而足戒也後世輕萬子怨堅護刺幾於詈 立言必關世教或自寫其襟懷或酬答往來或感物而賦皆 詩貴慎言古人歌詠時事立意忠厚出言微婉誦之令人 以我用事不為事所用 用事全貴能化大家用事全不見包钉之迹大抵質用不如 如侧逆腐者新板者活生者熟熟者生直者揉之散者鍊之 可寄情游戲亦可遺興但其歸宿必有勸戒之意言方有得 不詭乎正道方不悖於與觀羣怨事父事君之教故小物亦 į

自對 況妙在先安抱病漂萍老五字為起句以後句句為景實句 詩有通首寫景而實句句言情者杜公東屯月夜寫飄泊 詩有月事習熟者宣戒如吹笛月落梅折桺子 何寫情矣愚謂此意須解不止此一首足法也 意此士大夫立命之 **疉韻亦有一定之法如出以雙聲必以疉韻對否則** 亦可杜公多此等句 **詠螢印用螢事鍾伯敬譏之似刻然如杜** 鳳凰須用翻新爲妙耳 Ĺ 用有言 節 一此為鑒 夜歌用蓮

事者 盡 墓碑銘亦然 **叙後有詩賦後有詩定須別出** 斯 
述 
附 
答 
之 
詩 
有 
主 
人 
者 
立 
及 
其 
主 
人 題目繁雜者必辨其主 該輕小或卽輕小以見重大總要得其竅會愚按九谿諸 <del>追事繁雜不必纖悉備記但就其事而衡量之或舉重</del> **一作文作畫亦然** 詩寫事境宜近寫意境宜遠近則親切不泛遠則想 不解 理者知之迥非嚴羽王 ||一貫四大三三! 脳如散錢之 一阮亭朱竹垞軰所夢見 意補文中所未及作 有串愚謂此 10.00

羽所 **密詠恬吟覺前** 詩以 陳反覆唱歎而中藏之懽愉慘戚隱躍欲傳其言淺其情 沈確士云事難顯成理難言馨母託物連類以 於五七字中也必如朱子之論及九谿所言乃青天白日 ゴ腿 「僅質直敷陳絕無蘊蓄以無情之語而欲動人之情難 、意中有不得不言之隱借韻語以傳之 (地不倍於聖 論禪悟如猜謎見鬼所論源流體裁政九谿所論 詠以昌之涵촒以體之直 爲用者也其微妙在抑揚抗墜之閒讀者靜氣按 八聲中難寫碧外別傳之妙 人言詩之本 比を言じ 一得讀書趣 咏 豆 形之比與互 齊俱出朱子 取 淡 塗 矣 腳

詩 詩貴性情亦須論法亂雜而無章者非詩也然所謂法者起 **伏照應承接轉換自神明變化於其中若泥法不以意運式** 則死法实 **騷體有少歌有倡有亂歌詞未申發其意為倡獨倡** 爾抒詞亦復何味 《有不平於心必以清比己以濁比人而谷風三章轉以 比以渭比新昏何其怨而不怒邪杜子 泉水濁亦然 學古罰之野體然泥古而不能通變猶學書者但講臨 不外而己之神不存也 美在山泉水清 Ē 總

行之而又限以八句豈復有詠歌嗟歎之意邪 樂府之妙全在繁育促節其來于于其去徐徐往往於囘溯 **뼸終爲亂蓋言之不足故長言之長言之不足故反覆詠歎** 平仄閒而意言同盡矣其非餘情動人何有哉 **其源太肖祇襲其貌也韋孟諷諫在鄒之作肅肅穆穆未離 畑折處處人是卽依永和聲之遺意也齊梁以來多以對偶** 乙也漢人五言與而音節亾至唐人律體與弟用意於對 为一种 · 并 日 日 · 6/101 正劉琨答盧諶篇拙重之中感激豪蕩準以變雅似離 [言詩締造良難於三百篇太離不得太肖不得太離則失 一陸潘岳輩壓壓欲息矣淵明停雲時運等篇清 

學館答無名氏十九首是古詩體廬江小 整齊起結完備方為合格短篇超然而起悠然而止不必另 難於收敛收敛中能含濟無窮則短而不促又長篇必倫次 **秀之、親是樂府題** 風騷旣息漢人代與五言為標準矣就五言中較然兩體蘇 級起結苟反其位兩者俱俱 領遠別成 五言長篇難於銷敘鋪敘中有峰營起伏則長而不漫短篇 言繁何道所不貴蘇李詩言情款款感悟俱存無急言 **国的人,** 格愚謂凋明四 言意淡於詞脈理精蘊尋繹 更妻羽林郎陌 

漢魏詩只是 惯而纏絲也 間絕游子他鄉死生新故之威或寓言或顯言或反覆言 論而意自長神自遠使聽者油油普 為五言之祖 無奇關之思驚險之旬而西京古詩皆在其下是爲國風之 別古今流傳名句如思君如流水池塘生春艸澄江 詩十九首不必一 一別諒無會期実而云安知非日 氣盤旋晉以下始有住句可摘此詩運升降 人之詞 時之作大率逐臣棄妻朋友 口月弥坚自有時 小知其然而然也是 AND ASSESSED FOR THE PERSON OF THE LIBERT WHEN THE PARTY OF TH 初

者王右丞有其清腴孟山人有其閒遠儲太稅有其樸實章 陶詩胷次浩然其中有一段淵波樸茂不可到處唐人祖述 以來且讓少陵獨步 無象莫測端倪此運左史法於韻語中不以常格拘也于 五言長篇固須節次分明一 得遲遲我行之意 練紅藥當階翻月映清淮流芙蓉露下落空梁落燕泥情景 俱佳足資吟詠然不如南登爾陵岸回首塋長安忠厚悱恻 不相連屬者敘事未了忽然頓斷插入勿議忽然聯續轉接 **左司有其沖和柳儀曹有其峻潔皆學焉而得其性之所近** 氣運屬然有意本連屬而轉似 

白樂天詩能道盡古个道理人以率易少之然諷諭 波折隨步換形着着莽莽中自有灰綫蛇蹤蛛絲馬迹使 **斯其奇變仍服其警嚴至收結處紆徐而來者防其平行須** 地一詩囚江山萬古潮陽筆合在元龍百尺樓揚韓抑孟毋 語以送之不可以一格論 作斗健語以止之二 歌行起步宜高唱而入有黄河落天走東海之勢以下隨手 乃太過。韓孟聯句可偶一為之連篇素牘有傷詩品 孟東野詩亦從風騷中出特意象孤峻元氣不無動削耳以 · 港的味 信言小 往峭折者防其氣促不妨作悠揚搖曳 - 一年の日本の 卷使

杜子美獨開畦徑寓縱橫排奡於整密中飲應包酒 順體勢其製乃備神能之世陳杜沈宋渾金璞玉不須追 李太白之明麗王摩詰孟浩然之自得分道揚鐮竝推極盛 府專以口齒利便勝人雅非貴品 五言律陰蛭何遜庾信徐睃已開其體唐初 目然名貴 **盲苔無罪問者足戒亦風人之遭意也惟張文昌王仲初樂** 世變態雖多無有趣諸家之範圍者失以此非 古丞風勁角目 八研揣聲音穩

**| 荷難於屬對率爾放筆是借散勢以文其陋也又有通體** 中聯以虚質對液水 等章興到成詩人力無與匪埀典則個存標格而已外是 滿天地岑嘉州送客飛鳥外等篇直疑高 佳句然王元美以其寫景 無變換古人所輕即如蟬噪林逾靜鳥鳩山堅幽何嘗 散者李太白板泊牛洛盂浩然晚泊潯陽釋皎然轉陸鴻 だ米人已議之矣 一四語多流走亦竟有散行者然 八點絕 **阿黎解財**詹言八 例少之至過時件 一即後對一 **然必有不得不散之勢乃** 俱

别開 矣下接云好武甯論命封族不計年泊岳陽城下詩岸風翻 於禹力不到處河聲流向西下接云過衙山 板橋和下接树葉落山路枳花明驛牆周處士樸賦董樹水 如此拓開方振得起溫飛卿商山早行於雞聲茅店月人迹 夕浪舟雪灑寒燈和平矣下接云畱滯才難盡艱危氣記 主恩淚杜工部送人從軍詩个君渡沙磧絫月斵人煙和平 出塞清沙漠還家拜羽林和平矣下接云風霜臣節苦處月 | 句平對五六散行前半扇對之式皆極詩中變態 三四貴勻稱承上斗峭而來安緩脈赴之五六必聳然挺拔 一境上旣和平至此必須振起也崔司勳贈張都督詩 **門領船床魯言八** 

寫景矣 城將誰知恩遇淡就校飲收住也王右丞君問窮通理漁歌 收束或放開 院女蓮動下 唐元宗剱閥横雲峻一篇王右丞風勁角弓鳴 〈消淡從解帶彈琴宕出遠神也杜工部何當擊凡鳥毛血 優覺直踏下 一無就畫應說到眞鷹放阴 一聯不宣純乎寫景如明日 **施舟景象雕** 步或宕出遠神或本位收住張燕公不 一詎為楷模至宋陸校 **几松**問照清泉石上 步也就上文體勢行之 篇神宗 五月天

也 稱右丞萬壑樹參天千山響杜鵑山中 溫李擅長固在 **沈雲卿龍池樂章崔司勳黃鶴樓詩意得象先縱筆所到擅** 無生韻弗向也 分頂上 古个之奇所謂章法之妙不見句法句法之奇不見字法 一無花只有寒笛中聞折柳春色未曾看一 未易追摹 、詩鷺鷥飛破夕陽煙水面風囘聚落花芰 一語而 風 對 精 氣赴之尤為龍跳虎队之筆此皆天然, 一然或工 而無意譬之翦采爲花至 **枢雨樹杪百重泉** 氣直下

顰溫李以下 佳妙少陵出而瑰奇鴻麗 相生不露補敘轉折過接之迹使語徘而給其為徘斯能 賦洞庭湖宮 | 艸浪高||二月渡綠楊花撲 長律所尚在 鴛鴦固 日韻 、唐初應制贈送諸篇王楊盧駱陳杜沈朱燕許曲 堂正在此 、俱能工 是好句然句好而意盡句中矣又張蠙洞庭湖詩 爾邪破字撲字聚字凝字非新枉此不登大 氣局嚴整屬對工 叉無論已 稳但流易有餘鎔裁未足每為淺率家 1 變故方後此無能爲役元白 溪煙絲楊一 切段落分明而其要枉 語分明柳港小 江並

意非之妹非宗言 倦旗亭伎女猶能賞之非以楊音抗節有出於天籟者乎著 有勞外音味外味使人神遠太白有鬲 如崔顥長于曲金昌緒春怨王建新嫁娘張祜宮調等篇雖 七言長律少陵開出然清明等篇已不能佳何況學餘步乎 而三家中太白近樂府右丞蘇州近古詩叉各擅勝境也他 七言絕句以語近情遙合吐不露為主只眼前景口頭語而 非專家亦偁絕調 五言絕句右丞之自然太白之高妙蘇州之古淡並入化機 絕句唐樂府也篇止四語而倚聲為歌能使聽者低徊不 **17** .... 

白之白帝王昌齡之奉帯平明王之渙之黃河遠上其庶殺 象稍殊亦堪接武 主神各自有見愚謂李詞之囘樂峰前柳宗元之破額山前 李滄溟推正昌齡秦時明月為壓卷王鳳洲推王昌齡葡萄 乎而終唐之世無有出四章之右者矣滄溟鳳洲主氣阮亭 美酒為厭卷:本朝玉阮亭則云必非厭卷王維之渭城李 說他人之承寵而己之失寵悠然可思此非響於於指外也 王龍標絕句淡清幽怨意言微茲昨夜風開露井桃 玉顏不及寒鴉色兩言亦復優柔婉約二 / 維平 財 詹 言 八 山凰故國杜收之 一煙籠寒水鄭谷之楊子江頭 章只

馬脫羁飛仙游戲蹈極變化而適如意中所欲出韓文公後 君子清才林立並入巖中猶之邾萬已蘇詩長於七言短於 是誰嫌其有破壞廚體之意然正不必以唐人律之蘇門諸 蘇子鴨貿有洪爐金銀鉛鍋對歸路鑄其筆之起暖等於天 劒南集原本老杜姝有獨造境地但古體近繼今體近滑遊 叉開闢 於杜之犹雄腦踔耳明代楊君謙 五言工於比喻拙於莊語 老樣單之言恐非放翁知己 朱子五言不必嶄絕淩厲而意趣風骨自見知爲德人之音 境界也元遺山云只知詩到蘇黃盡滄海橫流卻 一覧はカロボーを言ってし 本朝楊芝田專錄其款

\*1.: Market Market

則有餘追大雅則不足也要之明初詞人以二公為冠袁景 諭 儀爾又次之高楊張徐之名特並舉於北郭十子中初非通 **元季都尙詞率劉伯溫獨標骨幹時能規橅杜韓高季迪** 獎一軍超王孫暨金率諸子聲價雖高未立並駕 吳蘭賴之兀奡迺易之之流利薩天錫之機鮮耀點故應並 **永樂以還崇台閣體諸大老倡之眾人應之相習成風靡** 文凱大之楊孟載基大之張志道以第 人於漢魏六朝唐朱諸家特才調過人步蹊末化故變元風 獨花揭四家詩品相敵又以漢廷老吏伯生自為最他如 利用度星門 次之徐幼文 實張來

一統且多酬應牵率之態率于鱗擬古詩臨摹已甚尺寸不離 無不有樂府古體卓爾成家七言近體亦規大方而煅煉未 固定招試誤之口而七言近體高率於貴脫去凡庸正使金 之心王元美天分既高學殖亦富自珊瑚木難及牛凌馬勃 於正李獻吉雄渾悲壯鼓盪飛揚何仲默秀朗俊逸回翱馳 唆實有過於非肖處錄其所長措其所短庶足服北地信陽 縣问是憲章少陵而所造各異駸駸乎三代之盛矣錢牧齋 此斷絕此爲門戶起見後人勿矮人看場可也按兩人學心 信上掎摭誚其摹擬剽賊同於嬰兒學語至謂讀書種子從 不覺李寬之東陽 力輓蘋瀾李夢 陽何大復繼之詩道復歸 17111

詩道 寫竹者必有成竹在宵謂意在筆先然後著墨也慘淡經營 青邓送沈左司詩並推神來之作 絕漢兼天盡交河蕩日塞夜火分干樹春星落萬家高岑遇 高集中雲出三邊外風生萬馬閒人吹五戛笛月照萬家霜 謝茂秦古體局於規格絕少生氣五言律句烹字鍊氣逸 沙並見自足名家過於回護與過於指擊皆偏私之見耳 一豈所語於得心應手之技乎 行當把臂七言送謝武選一章隨題轉折無迹有神 所貴儻意格別架芯然無指臨文敷行支支節節而成 不廢煉字法然以意勝而不以字勝故能平字見奇常 多用 日を言じて 颇

嚴儀卿有詩有別才非關學也之說謂神明妙悟不專學問 業處歡娛忽作竆途之哭準之立言皆爲失體記曰志之所 非教人廢學也誤用其說者固有原伯魯之護而當个談點 至詩亦至焉本平志以成詩惡有數者之患 樂府中不宐雜古詩體恐散樸也作古詩正須得樂府意古 吾恐楚則失矣齊亦未為得也 家又專主漁獵若家有類書傻成作者究其流極厥弊維 字見險陳字見新樸字見色近人挾以闡勝者難字而已 擬率嵩偶遇庸人頌言良哲以致本居泉石戛懷遯世之息 小小送別而動欲沾襟聊作旅人而傻云萬里登陟培塿比 品品

景可互相統易是以酬應 抒寫之斯為千秋絕唱後人黏著一事明白斷案此史論 太冲詠史不必專詠 詩中不室雜律詩體恐疑滯也作 懷古必切時地老杜公安縣懷古中云灑落君臣契飛騰 格也至胡曾絕句百篇尤為墮人惡道 分不得入楷法寫楷書位入篆八分法同意 而能該與史筆也劉滄咸陽鄰都長州諸訴設色 一人專詠一事已有懷抱借古人事 一援據本傳見微顯聞幽之 爲懷古矣許渾稍 律詩正須得古 可觀然落句 風格

堪託死生德性之調良俱為傳出鄭都官詠鷓鴣則云雨昏 游山詩永嘉山水主靈秀謝靡樂偁之蜀中山水主險隘杜 或別寫與意或淡淡寫景以避雷同期說此別行一 青艸湖邊過花落黃陵廟裏嗁此又以神韻勝也彼胷無寄 **外經論定不須人云亦云王摩詰西施詠李東川謁夷齊廟** 川眞面 唐以前未見題畫詩開此體者老杜也其法全在不黏畫 託筆無遠情如謝宗可瞿佑之流直猜謎語耳 黑 路法也

倫序有照應若闕一不得增一不得乃見體裁陳思贈白馬 議論後人可以為式 意言詞采彼此互犯雖搆多篇索其言歸一 世之意本光杜法推廣之才是作手 出登臨凭弔之意題畫人物有事實可指者必發出知人論 發論如題畫馬畫鷹必說到眞馬眞鷹復從眞馬眞鷹開出 秦州雜詩之類是也後人一題至十數章甚或二三十章然 王謝家兄弟酬答子美游何將軍園之類是也又有隨所與 首有一首章法一 一章一意分觀措雜總迦絫案子昂處遇太白古風子美 題數首又合數首為章法有起有結有 又如題畫山水有地名可按者必為 章可盡不如割

者或偶見之若字義俱同必從愛易 嚴置屋牛可悟韻腳之法 前說沉豐後說衡湘則犯複矣即字面亦須避忌字同義異 寫景寫情不宜相礙前說睛後說雨則相礙矣亦不可犯複 詩起句人真文寒刪先韻詩起句人單鹽咸亂雜不可爲訓 律詩起句可不用韻故宋以來有入別韻者然必於通韻中 去極平而斷難受移者安穩故也安穩者牛之謂也杜詩縣 詩中韻腳猶大廈之有柱石也此處不牛傾折立見故有看 入如各韻詩起何入東支韻詩起句入微是也若庚青韻 一个假明供作品自入 維威七律十一首余常不喜海军春

一韻也自元白胁始而皮陸倡和又加甚馬以部為主而以 則趁韻空血脈橫亙句聯意斷也有志之 相從中有欲言不能通達矣近代專以此見長名 詩云新詩改罷广長岭改則弊病去長岭則神味出 一同作 詩不必同韻即同韻亦正 韻中不必句句 土當不囿於俗